

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	山梨県	市町村名		大学名	
派遣日時	令和 7 年 9 月 25 日 (木曜日) 13:30~15:30 (3) 全体研究会 13:40~15:30 横溝氏講演				
実施方法	派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	山梨県総合教育センター				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会事務局 学校教育部 学校経営支援課 指導主事 横溝 亮 氏				
相談者 (受講者)	山梨県：日本語指導担当者及び特別の教育課程で指導を受けている児童生徒が在籍する学校の日本語指導担当者				
相談内容等	①外国につながる子どもたちが、よりよい学校生活を送ることができるように、在籍学級担任や管理職等がどのように関わっていけばよいのか、その関わり方や児童生徒の内面を理解するための考え方やポイント。 ②日本語指導担当者を取り出し等で指導を行う際の具体的な指導法や関わり方等。				
派遣者からの指導助言内容	①インクルーシブな学級づくり 初めから全員が安心と居場所を感じるクラスや一人一人の個性が尊重されるクラスが成立しているクラスはない。次第にじわじわと実感していくもの。また、大人が声を大にして褒めるよりも、仲間が声をそろえて応援する方がより大きな力となる。 具体的な方法としては・・・ ・すてきなことは小さなことでも取り上げる。 ・子どもの言葉に対して丁寧に傾聴する。 ・自尊感情を大切にする。 ・授業の中で存分に活躍する機会をつくる。 ・集団効力感を大切にする。 ②子どもたちの自己肯定感を高める指導 ・出来たら褒める。→中学生も褒められると嬉しい。 ・その子しか知らないことを聞く。→文化・経験・人・学校・好きなこと等。 ・ストレングス・アプローチ。→「できること」に目を向ける。 ・全部にこだわらない。→今日できなくてもいい。 ・在籍学級で認められるように在籍学級担任と連携。→担任や在籍学級で認められることが一番嬉しい。学習単元のまとめは在籍学級で行うとよい。				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・外国につながる子どもたちの中には日本に来たくて来ているのでなはい子どもも多数いることがわかった。そのような子どもたちも含め、日本での生活、学校での学習、友達との関わりがより豊かになることができるように、在籍学校への働きかけをさらに進めていく。・日本語指導担当者、在籍学級担任、管理職等、それぞれの立場に応じた研修会を計画、実施していく。 <p>【日本語指導担当者】</p> <p>日本語指導センター校担当者会（年3回）</p> <p>【在籍学校教職員】</p> <p>帰国・外国人児童生徒教育研究会（年2回）</p>
--------------------	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。